

OPERATION BLESSING
NEWS
2026 11月
vol.22

特定非営利活動法人オペレーション・ブレッシング・ジャパン（OBJ）は、災害、貧困、戦争などによって苦難に直面する人々に対し、イエス・キリストの精神に基づき、その苦しみを和らげるための支援活動を国内外で行っています。
活動にあたっては、米国バージニア州に拠点を置く
国際NGO「Operation Blessing International（OBI）」と理念を共にし、連携しています。
OBIは設立以来、世界123以上の国と地域で、深刻な状況にある人々へ実践的な支援を届けてきました。

令和8年熊本地震支援

支援の狭間で、孤独と向き合う人々を支える



発災から現在までのOBJの活動

7月28日（火）	熊本地震発災
8月3日（月）	OBJ先遣隊が熊本入り
8月4日（火）	給水支援・現地ニーズ調査
8月7日（金）	福祉施設への物資支援を開始
8月10日（月）	現地活動を一区切り・後方支援へ移行
8月17日（月）～	対象地域を拡大
9月～	フォローアップ・継続支援
9月18日（金）～	看護師派遣

OBJでは7月28日の熊本地震発災直後から、関係機関や医療・福祉関係者、現地の支援団体からの情報収集を開始しました。8月3日に先遣隊が現地入りし、現場同行や聞き取りを重ねる中で、高齢者や障がいのある方が暮らす福祉施設や医療機関に、広域的な支援では把握されにくい、個別の支援が必要とされていることがわかりました。そこで私たちは、利用者が入居・居住する施設を優先し、物資を一律に配布するのではなく、施設へ直接連絡し、断水の状況、利用者や職員の困りごと、行政や他団体から届いている支援を確認し、不足しているものを必要な量だけ届けました。

例えば氷川町の『特別養護老人ホーム　早尾園』では、施設のインフラは復旧していたものの、被災しながら勤務を続けた職員20名の食料が不足していました。すでに水は確保されていたため、支援が重ならないよう食料に絞ってお届けしました。『介護老人保健施設 八祥苑』では、福祉避難所に指定されたことで、通常定員を超過して高齢者を受け入れたため、食料に加え車いすなどの備品や看護師の人手不足も明らかになりました。必要な物資を届けた後にも連絡を続けたことで、看護師の派遣による人的支援へとつながりました。

地域にまとまった支援が届いていても、施設ごとの状況や利用者の身体状態によって、必要なものは異なります。支援後も復旧状況や新たな必要を確認し、その時々の声に応じて支援内容を変えていくことが大切です。

皆さまから託されたご支援が、水や食料、介護用品となり、さらに看護師の活動を支える力となって、被災した方々の暮らしへ届いています。温かいご支援に、改めて心より感謝申し上げます。



声にならないニーズを拾い上げる
空調が故障した施設へスポットクーラーを届けました。施設の方からは「そんなに高いものをお願いして申し訳ないです」との声も。



復旧してからの不便や不足にも対応
断水は解消したものの水量は少なく水質にも課題が。高齢者施設へ食事作りに必要な水を追加で支援しました。



一度だけで終わらない支援
物資を届けた後も施設と連絡をとり、介護用品や飲料、食料などその後に生じたニーズに合わせて追加支援を継続します。

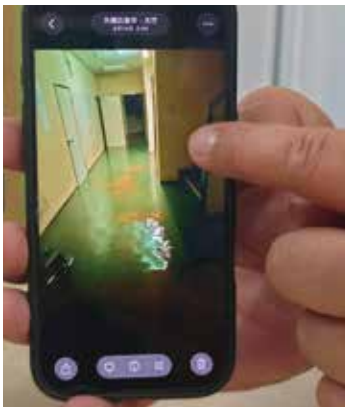


この夏、各地で続いた災害支援

令和８年８月千葉豪雨・北陸大雨　多発する大雨災害での緊急支援

今年の夏、千葉や富山、石川で大雨による災害が相次ぎました。8月13日～14日のお盆期間中には、千葉県を中心とする関東地方で集中豪雨による浸水被害が発生。OBJでは15日から千葉県内の福祉施設の被害状況や支援ニーズを確認し、具体的なニーズがあった大網白里市の福祉施設へ緊急物資支援を行いました。約2週間後、追加物資を届けるためOBJスタッフが施設に出向き、復旧の状況、追加支援のニーズについて直接お話を伺いしました。

一方、8月27日には富山県、石川県の一部の地域でも記録的な豪雨となり、大きな被害が出ました。OBJでは31日に富山県氷見市に入り、高岡市、石川県羽咋市を含む約75の福祉施設を対象に被害状況の把握と支援ニーズを調査。支援が必要とわかった氷見市の施設には、現地チームが当日中に必要な物資を調達し、直接届けました。被害地域では道路の陥没や土砂流入による通行止めが多いため、通行止め解除を待って施設のできるだけ近くまで搬入するなど、受け取る側の安全にも留意して進めています。



千葉県大網白里市施設



被災当時の浸水の高さについて説明してくださいました







富山県氷見市介護施設へ必要物資を届けました

令和8年令和6年能登半島地震　心のケアが必要とされる能登



OBJ心の支援チームでは、能登半島での支援活動を現在も継続しています。被災者を対象にしたカウンセリングや傾聴を定期的に進める中、7月には、石川県穴水町地域ささえあいセンターおよび社会福祉協議会からの依頼で、生活相談員や民生委員など支援者のための各種研修を実施。支援事例を用いたグループディスカッションや傾聴の応答例、ロールプレイング、ストレスへの対処法などをお伝えしました。被災した方への心の支援だけでなく、支援者にも寄り添い、未来への歩みを後押ししています。

サマーキャンプin福島

「どう生きるか」を学ぶ機会に

社会的養護を経験した若者が役割を得て、新たな世界の扉を開く

南相馬ブレッシング・ルーム 主催　サマーキャンプ2026　in福島県須賀川市

2026年7月22日(水)～24日(金) 参加：28名　引率スタッフ7名

今年のテーマは「知っている」から「できる」へ。子どもたちは自ら手を動かし、仲間と協力しながら「やってみる」経験を大切にしたプログラムでした。

毎年実施している南相馬ブレッシングクラブのサマーキャンプ。今年は若者支援を経験した17歳のMくんが引率ボランティアとして参加しました。福島県須賀川市で行われた２泊3日のキャンプではカレー作り、遊園地やプールあそび、工作などの楽しいアクティビティが充実。Mくんはスタッフの1人として子どもたちをしっかりとリードし、頼もしい姿をみせていました。「OBJのボランティア活動は、知らない世界に触れられるいい経験。子どもから大人までいろいろな人と関わることで、どう生きるかを学ぶ機会になりました」とMくんは話します。





OBJでは、2024年からソーシャル・アクション・プロジェクトによる若者支援を実施。社会的養護（さまざまな事情により家庭で生活することが難しい子どもたちを児童養護施設や里親家庭などで育てる仕組み）を経験した若者たちとの関わりを続けてきました。彼らが進学や就職、一人暮らしなど、成年としてのライフステージの変化によって揺れる心に寄り添い、人間関係や金銭管理など新たなライフスキルを習得していく中でのさまざまな相談に対応しています。Mくんは活動初期の交流イベントから参加し、ともに食卓を囲み、近況を話す中で関係を育み、この２年でOBJのボランティア活動にも参加するように。Mくんの里親はその変化を驚きとともに見つめています。



若者支援の取り組みが評価され、仙台里親の会と、山口県で開催された全国里親大会で全国里親の会から、それぞれ感謝状をいただきました。

「ボランティアとして責任ある役割を積極的に担い、2泊3日の全日程を最後までやり遂げたことに驚き、大きな成長を感じました。普段は生活のリズムが整えられないこともあるのですが、OBJのイベントが近づくと自ら生活を整えています。OBJの活動が『社会の窓口』として、社会の広さやつながりを感じられる貴重な機会になっているのだと思います」と話します。

周囲から支えられながらも、自分の役割を持って挑戦する頼もしい様子にスタッフも驚かされるばかりです。これからも若者への丁寧なサポートを続けて参ります。

Seminar 2026

医学・心理学・聖書の視点から学ぶ

こころの解放セミナー



9月、カナダの精神科医のグラント・マレン医師とキャシー夫人を再び日本にお招きし『こころの解放セミナー2026』と『よりよい夫婦のためのマリッジセミナー』を東京と仙台で連続開催しました。



グラント・マレン医学博士

カナダ・オンタリオ州在住のクリスチャン精神衛生医師。多くの臨床経験と自身の歩みから、心の束縛から解放され喜びを取り戻す方法を研究。特にうつ病や不安障害に対し、医学的・心理学的な知見と聖書の視点を組み合わせた実践に定評がある。邦訳書に『こころの解放（身体・精神・霊の癒しの処方箋）』（2019年イーグレープ社）。





東京会場では２日間かけて「こころの解放」について網羅的に学べる本格的な講座を設定。「2日間参加し、それぞれのセッションのテーマがとても興味深かった。行き詰まっていたので非常に励みになった」との感想がありました。また、受講はオンライン対応し、参加者が自分に合ったスタイルを選択できるよう配慮。東京での期間中は雨天でしたが「天候が悪かったので２日目をオンラインに切り替えることができ、とてもよかった」との声も。

さらに特別講演『マリッジセミナー』も大変好評でした。パートナーとの参加も多く、夫婦のコミュニケーション、親からの影響などのお話をコミカルなイラストを添えてお話しいただき「自分自身の恐れから、配偶者に対して声に出していない言葉の多さにびっくりした」など、気付きのコメントが多く寄せられました。

ベネズエラ地震被災者支援

手作りの温かな食事を届ける

2026年6月24日、南米・ベネズエラ北部で2度の大地震が発生。死者は6,500人を超え、甚大な被害をもたらしました。被災地では住宅を失った方々が避難生活を続けています。OBJでは、ジャパン・プラットフォーム（JPF）の助成を受け、メキシコから駆けつけたオペレーション・ブレッシング・メキシコと連携し、被災した方に、手作りの温かな食事と飲料水を提供しています。　首都カラカス近郊のキッチンに、OBJの日本人スタッフの姿があります。栄養バランスに配慮したメニューを調理し、一食ずつ容器に詰め、現地ボランティアの協力のもと、必要な地域に配送する活動が今も続いています。





現地から届いた声　「日本の皆さんの大きな心に感謝しています。本当に、心からありがとうございます」

特定非営利活動法人オペレーション・ブレッシング・ジャパン
〒981-3133仙台市泉区泉中央1-13-4泉エクセルビル3F
Tel022-779-6579　info@objapan.org　www.objapan.org